

大阿弥陀堂跡

観自在王院には、浄土仏教で崇拝されている阿弥陀如来を祀った 2 つの仏堂がありました。

この寺院の主要な建物と考えられているのが、大阿弥陀堂です。

大阿弥陀堂には阿弥陀如来の像や観音仏、知恵の仏である勢至菩薩の像が祀られていました。堂内には銀の仏壇、磨金の高欄があり、堂内には京都の名所が描かれていたといします。

観自在王院の大阿弥陀堂は、12 世紀に平泉を支配した藤原二代基衡（1105–1157 年）の妻が建立したとされ、そののちに 1573 年に兵火により消失したと記録されています。現在の建物は 18 世紀に建造されたものです。この場所に残されていた路盤(石)は、かつての大阿弥陀堂のものと考えられています。現在は、毛越寺の宝物館に保管されています。